# 自閉症研究の新たな展開を迎えて

黒田　吉孝

くろだ　よしたか
滋賀大学教育学部
本誌編集委員

ここ数年，自閉症スペクトラムという言葉が頻繁に使われる．直訳すれば「連続体」となるが，自閉症，アスペルガー症候群，非定型自閉症等の生来性の社会的障害を示すグループを意味するものとして使われている．この障害の本質については，今日でも議論が継続している．症状論的には，「対人的相互交流（情緒的交流）の障害」「言語および非言語的コミュニケーションの障害」「想像性の障害」の「3つ組」を有する特異的な発達障害として理解されてきている．「3つ組」の内容から，社会性の障害と言っても，心因性の情緒障害やADHD等とは性格が異なることは自明である．このスペクトラムが広汎性発達障害と呼ばれる理由も，「3つ組」という広範囲にわたる障害を有しているところにある．高機能自閉症とアスペルガー症候群は，このスペクトラムの中で知的なレベルにおいて問題がないにもかかわらず，上記の「3つ組」の障害，もしくは，特徴的なスタイルを有しているサブグループとして理解される．

筆者は本稿に「自閉症研究の新たな展開を迎えて」との表題をつけた．それにはいくつかの理由がある．

第1は，このスペクトラムの発生頻度が従来の自閉症の頻度に比べはるかに多く，かつ，スペクトラムの中で高機能自閉症とアスペルガー症候群の占める割合が半数もしくはそれ以上を占めているためである．報告により異なるが，100人に1人の割合でこのスペクトラムが発生し，その半数以上が高機能自閉症とアスペルガー症候群であるとすれば，このサブグループに対する診断方法，特に早期の診断方法，特性や障害理解の啓蒙，教育や支援の方法，社会参加等に対する研究が求められる．

第2は，今日の「特別支援教育」において，通常学級に在籍する児童の実態調査にもとづいて，このサブグループに対する通常学級での教育と支援が強く期待されているためである．文部科学省等の報告においても，高機能自閉症と心因性の情緒障害では障害の性格が異なるにもかかわらず，両者が情緒障害教育の対象になっていることを指摘し，適切な教育的対応が必要であるとしている．この場合，特に，アスペルガー症候群に対する教育的対応が急がれよう．多くの児童が認知されずに教育困難児として放置されている可能性が高い．

第3は，高機能自閉症とアスペルガー症候群に対する研究が自閉症研究全体を進展させ，発達研究へ寄与することが可能であるためである．スペクトラムとしてこのサブグループを位置づけることは，このスペクトラムに属する児童に共通の特性や障害が存在することを前提にしている．この前提への検討が求められる．このサブグループは自己を語り，綴ることが可能であることから，自閉症研究に新たな可能性を提供してくれる．さらに，人の社会性の発達とは何かという，発達研究の重要テーマに対しても貴重な資料を提供してくれる．

この特集が自閉症研究の発展の契機になればと願っている．